

2020年11月6日  
 千代田化工建設株式会社  
 IR・広報・CSR部

## 2021年3月期第2四半期決算説明会(電話会議)質疑応答要旨 (2020年11月5日開催)

2020年11月5日に開催致しました2021年3月期第2四半期決算説明会(電話会議)において、出席者の皆様から頂いた主なご質問と弊社の回答を以下にまとめております。

	質問	回答
1	完成工事総利益率が低下している理由は。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、海外の大型プロジェクトを中心に影響が出つつある。このため、新型コロナウイルス感染症拡大の影響下における種々の制約が続くことを前提に、特定の海外大型プロジェクトを中心に遂行計画を精査し、プロジェクトライフベースでの影響額を合理的に見積もり一括して計上した。これが主因となって完成工事総利益率の低下を招いた。プロジェクト全般にネガティブな影響が出ているというわけではなく、大半のプロジェクトは想定内で遂行中。
2	通期予想の達成見通しは。	コスト削減により販売管理費は通期予想比下振れて推移しており、営業利益は通期予想を達成出来る見通し。
3	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、受注環境に変化はあるのか？	新型コロナウイルス感染症拡大の影響やそれに伴う資源価格の下落と世界経済の低迷を背景に、投資判断が後ろ倒しとなった案件もある。 一方、当社は、蓄電を含め再生可能エネルギー分野や水素ビジネスを取り組んでいることから、脱炭素へ向かう流れを追い風と捉えており、LNGなどの既存ビジネスと両輪でポートフォリオを組み立てていく。
4	デジタルトランスフォーメーション(DX)の取り組み方針はどうか。	DXについては攻めの戦略で取り組んでいる。 IT基盤強化のため、IT業界最大手のTIS社との協業を決め、TIS千代田システムズ(株)を設立した。TIS社のITの知見と当社の持つプラント業界の顧客とのつながりやノウハウを融合させることでビジネスに厚みが出せる。 一方、社内の空間自動設計の効率化を目指して(株)Arentと新たなシステムの開発を進めてきたが、革新的な設計ツールを開発出来たので同社と(株)PlantStreamを設立し、外販にも注力していく。
5	カーボンニュートラルへ	2050年までカーボンニュートラルを達成することが政策目標と

	質問	回答
	の対応は。	<p>して表明されたことを受けて、今後、成長戦略の中で地球環境分野に更に注力していく。</p> <p>カーボンニュートラルを達成するには、再生可能エネルギーを普及させるだけではなく、石炭に代わる LNG の役割も益々重要になる。更に炭素循環社会に向けて CO<sub>2</sub>の回収、再利用についての対応も必要となる。</p> <p>グリーンエネルギーに一気に舵を切るわけではなく、こうした動きを捉えて、ポートフォリオのバランスを取りながら進めていく。</p>

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。

従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。